７．和傘教室

15名の募集定員を上回る応募者数を予想していたのですが、12名の方の参加を得て、例年のように２日間に亘り賑やかに難しい傘張り作業に取り組みました。予想はしていましたが、受講者の皆さんは慣れない作業に悪戦苦闘の連続で、講師ほか4名の手助けにより、美しい和傘を完成させ、仕上げ職人の手で油引きと漆かけの後、4月中旬に受講者の皆さんにおわたししました。

中山道と加納城を中心とした加納を、知識としてもっと深く岐阜市民や旧加納町民に市っていただく「加納の日」の行事なのですが、和傘教室は自分自身で和傘を作り、加納の文化遺産を次世代に継承する役目を担っている大切な講座です。

２日間、延べ約10時間を過ごした受講者の皆さんと講師との触れ合いは、他の行事では得がたいものであり、忘れられない貴重な体験になったと確信しています。

しかしながら、次回の開催に向け、次のような反省点がありました。①旧加納町民の参加人数を増やす手段（今回は4名のみ）　②気温が低いのに暖房設備が無かったこと。季節を考慮。（藤沢）

熱心に説明を聞く参加者の皆さん

加納城は復元できるかな？

記念撮影　いろいろ勉強できました

８．道路修景研修旅行

遅ればせながら、平成19年11月18日に実施したバスでの研修旅行についてご報告します（これは「加納の日」とは別の取り組みです）。

今回の目的地は、伊賀上野の城下町と東海道関宿場町でした。伊賀では市職員の方にご説明をいただき、堀の道、赤門通り、二之町通り、寺町通りなどの修景を見学。関宿では、自由散策にて道路の集計を見学しました。

帰りの車中で書いたアイディア票には、「コンセプト、テーマ、思想などの統一が良い」「舗装の工夫が良い」あるいは「色による交通安全対策にはやりすぎに思える部分もある」といった意見がありました。今後の加納のハード整備にも活かしていけたらと思います。次回の研修旅行が企画できたら、皆さんもぜひご参加ください。　（宮本）

中山道加納宿はどんな道にすると良い？
（研修旅行のアイディア票から）

- 地道風で少し着色があってもよい（11人）
- 水はけのよい明るめの舗装（3人）
- 御かげ石や自然石もアクセントに使ってみたい（3人）
- ソフトタイルで茶の濃淡（2人）
- 加納の町には古い街並みがそれほど残っていないので修景の必要はない（2人）
- 濃い目の黄色
- 側溝はコンクリートのままがよい
- 道の両側と中心は色を変えるとよい
- グレーチングは良い物を使った方がよい
- 下水道の汚泥から作られる路盤材を資源回収のため使用するとよい
- 中山道のみ３ｃｍ幅の赤線を引く
- よく目立つ通りで色を変えるとよい

問合せ・連絡先
事務局　〒500-8415 岐阜市加納中広江町68　横山ビル３階
事務局長　松尾　一　TEL090-3389-3067　FAX　058-274-7197

お気軽に
どうぞ！

加納の風

http://www.kanou-jyo.org/

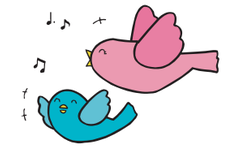
第８号
H20年４月

発行：加納まちづくり会

はてさて久方ぶりの会報です。発行が不定期で大変に申し訳ありません。

今号では、平成20年3月に、多くの方々のお力添えで開催させていただいた「加納の日」の報告をお届けします。

今回で3回目となったこの催しですが、地域に浸透し、楽しみにしてくださる方が少しでもいてくだされば幸いです。



加納の風景ここにあり　その６

大景ばかりが風景ではない、ということで、今回は足下の小さな風景をご覧ください。加納城趾でみつけたキアゲハです。人も小さな生き物たちも集まる、そんな加納を守っていきたいものです。

はじめに

「加納の日」は、加納まちづくり会の中心的活動として設けています。平成17年度から毎年実施し、加納の歴史を知り、今後の発展のあり方を求める活動をしています。

今年度は、3月8日に中山道の石造り道路標識のお披露目としての除幕式を行ない、ここから「加納の日」の出発となりました。朝の9時半にもう30人ほどの方の参加があり、関心の高さにびっくりしました。

この後、加納城の発掘現場では大手櫓門の礎石を見学し、午後からは「加納講座」として、「加納ものしり博士」の表彰式、文化庁の本中真先生による講演、加納城を中心とした活用の話し合い等が行なわれました。また、同時に岐阜女子大学の学生の皆さんによるコンピューターグラフィックやムービーの展示、公民館では毎回好評の和傘教室が行なわれました。（森嶋）

１．歴史系サインでたどる　タウンウォッチング

平成20年3月8日、土曜日。すでに、藤沢副会長のご厚意で野点用の赤い傘が集合場所に立てられています。案内サインにかけられた白い布を引っ張って除幕し、暖かな朝９時30分、岐阜市加納栄町と本町との交差点をスタートしました。参加者は小学生から高齢者まで62名でした。

コースはここから中山道沿いに西へ加納八幡町、さらに加納城跡までで、和気あいあいに進んでいきました。サインの設置箇所は、この場所と大手町、柳町そして八幡町の荒田川に架る加納大橋の端の４ヶ所ですが、今後も順次設置されていく予定です。

これらの歴史系サインは岐阜市が設置したものですが、内容や設置場所は「加納まちづくり会」のほか地元の諸団体が協働で、ワークショップや下見を兼ねたタウンウォッチング、説明会など行なって検討してきたものです。皆さんもサインをたどって加納をまわってみませんか。　（松尾）

２．加納城跡の発掘

平成19年度の加納城跡の発掘調査は、江戸時代の本丸の正門跡で行いました。

当時の正門は、絵図などによって、２棟の門が建てられていたことが分かっています。調査の結果、２棟のうち、内側の門（櫓門という形式の門）の柱を支えた"礎石"２石を発見しました。

礎石は砂岩という石を平らに割ったもので、45㎝四方の正方形のものと、30㎝×45㎝の長方形をしたものです。２石は、櫓門の南西角とその東隣の柱を支えていたもので、その間隔は約3.3mあります。

また櫓門に接続する石垣も見つかり、門の周辺だけは綺麗に平らに割った石で石垣を造り、見栄えを良くしていたことが分かりました。（恩田）

見学会の様子

発掘された礎石（下は拡大写真）

３．加納ものしり博士検定テスト表彰式

第３回「加納ものしり博士検定テスト」の表彰を行いました。歴史と文化にあふれた加納の良さを多くの人に知ってもらおうと実施した「加納ものしり博士検定テスト」も今回で３回目となりました。

今回も100名を超える方からもご応募をいただきました。中には大阪の方や愛知の方の応募もあり、スタッフ一同驚きながらも大変喜んでおります。

第２回に21名もの満点獲得者が出たこともあり、より難易度が高めの問題設定になりましたが、今回も13名の方が見事に満点を獲得され加納ものりし博士として認定させていただきました。なかでも初回から３回すべてに満点を獲得されている小栗さんご夫妻と桑原さんには特別記念品を贈呈させていただきました。難

易度が高すぎチャレンジする意欲が薄れたというご意見もいただいておりますので、内容をより工夫して今後も実施していきたいと思っております。なお今回も設問ミスなど不手際がありましたこと、謹んでお詫び申し上げます。（宮田）

表彰式の様子

４．加納講座

午後から南部コミュニティーセンターで行われた「加納講座」には、ウォーキングの途中に立ち寄ってくださった方も含め、たくさんのご参加をいただきました。「ものしり博士」の表彰に始まり、中山道歴史系サインの報告と活用、加納学セミナー（講演会）、加納城発掘の報告、そして、加納城跡の使い方を考えるワークショップと、盛りだくさんの内容ながら、メモをとったり、積極的に話し合いに参加するなど、最後まで和気あいあいとした雰囲気でした。

また、別室で行われていた岐阜女子大学の学生さんによるＣＧ・ムービー展にも見学者が絶えず、画面に映し出される旧加納町役場を興味深く眺めていました。　（水野）

ＣＧとムービーの展示
岐阜女子大学の皆さん、ありがとうございました！

５．加納学セミナー

今回の「加納学セミナー」は、「加納城跡が語るもの。過去・現在・未来」と題し、文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官の本中真氏を講師にお迎えいたしました。

全国各地を実際に訪れての遺跡の活用や保存の紹介は、大変わかりやすく示唆にとむものでした。保存と活用のバランスや訪れる人に価値を伝える整備が大切であるとのお話に、これから私たちは、加納城跡の"何を残し、何を変えていくか"、真剣に考えていく必要があると痛感しました。

加納の宝のひとつである、加納城跡。20年後、30年後･･･どんな姿で私たちを見守っていてくれるでしょうか。　（水野）

加納学セミナーの様子
本中先生、ありがとうございました！

６．ワークショップ
「加納城跡の使い方をみんなで考えよう」

今回のワークショップは「ぎふまちづくりセンター」と協働で行い、30名ほどの方のご参加をいただきました。グループに別れて加納城跡の活用について討議し、グループ別に討議内容を発表しました。

提案されたアイディアとして、「学校教育や社会学習で使用出来るようなあずま屋」「観光客が使えるようなキレイなトイレを設置したら」といった貴重な意見があり、今後の加納城跡の整備の参考にしていければと思います。　（松尾）

グループに分かれて討議

「加納城跡、こんな風に活用しては？」

みんなで記念撮影